

社会福祉法人 幸星会 祝紀寿壁新聞

三月十六日(木)午前十一時、
ほととの家の中村カヲリさんの
百歳を祝う会をご家族にも
ご出席いただき、一階会議室
で開催しました。



カヲリさんは、大正六年三月十五日に盛岡市西下台で誕生し、七人兄弟の中、ただ一人の女性ということでした。現役の頃は岩手医専（現在の岩手医科大学）の産婦人科で看護婦をされていたそうです。
当時、岩手県庁職員と一緒に沢内村（現、西和賀町）の乳児死亡ゼロ対策事業にも携わったということです。

この度の百歳（紀寿）のお祝いに際しては、谷藤裕明盛岡市長から直筆の「萬寿」の盾とお祝の金一封が贈られました。市議会開会中の谷藤市長に代わって長寿社会課職員が持参されカヲリさんに直接お渡しになりました。また、菊地施設長から、施設からの花束を渡して紀寿をお祝いしました。



中村カヲリさん、百歳！おめでとうございます。
きっと百年の人生の中には、私たちなどには想像できないような色々なことがあったことと思います。
ちよつと想像しただけでも、大正、昭和、平成と三つ時代、健康に歩んでこられたこと、本当に尊敬します。
また、カヲリさんは、お習

字がとても上手です。そして、ドイツ語がペラペラに話せます。とても感動します。

これからも、長生きして、色んなことを私たちに教えてほしいです。そして、カーサ南盛岡、いや盛岡市、出来れば日本一のご長寿になってほしいです。これからも仲良く暮らしていきたいでしょう。

(菊地施設長のお祝いの言葉から)



この紀寿をほくとの家人居者の皆さんも、ここから祝福しています。いつもお食事を共にして、一緒に歌ったりしながら過ごしている皆さんに、カヲリさんのご長寿とお元氣をおすそ分けしていただきますしよう。



谷藤盛岡市長から贈られた「萬寿」の盾を手にするカヲリさんです。



ご家族から贈られた「家紋入りのお人形さん」です。



施設からお花をプレゼントしました



ご家族から「いつも大変お世話になっております。本人はとても満足しております。」

お食事も美味しいし、お風呂にも入れていただき、とても温かく介護していただいていることに感謝しています。今後ともよろしくお願ひします。」との御礼のご挨拶がありました。